

第2学年 国語科学習指導案

授業者: 浜崎 俊治

日時・場所 令和3年11月10日(水) 5校時 川崎市立大島小学校 2年1組教室

1. 単元名「せつめいのしかたに気をつけて読み、それをいかして書こう」
～馬のおもちゃの作り方 おもちゃの作り方をせつめいしよう～
2. 単元目標
共通、相違、事柄の順序など、情報と情報の関係について理解することができる。
事柄の順序に沿って、簡単な構成を考えることができる。
事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。

3. 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評単元基準	・共通、相違、事柄の順序など、情報と情報の関係について理解している。 (2)ア	・「書くこと」において、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。B(1)イ ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉えている。C(1)ア	・事柄の順序に沿って、粘り強く構成を考え、学習課題に沿っておもちゃの作り方を説明する文章を書こうとしている。
小単元における評価規準	1		・「おもちゃの作り方」の説明のしかたに関心を持ち、進んで分かりやすい説明を書こうとしている。
	2	・順序が分かる言葉をもとに、馬のおもちゃの作り方の手順を捉えている。	・順序を考えて教材文を読み、文のまとまりを捉えながら説明の工夫を読み取っている。
	3	・順序が分かる言葉を使って、説明する文章を書いている。	・説明の順序に沿って、構成を考えながら文章を書いている。 ・文章を読み返し、分かりづらいところを書き直すなど、文章をよりよくしている。 ・書いた説明を友達と読み合い、感想を伝えあっている。

4. 単元について

(1) 単元について

本単元では、「馬のおもちゃの作り方」の説明から、手順を示す文章の書き方を学ぶ。そこで説明の工夫を使って、実際に説明する文章を書くことで、理解を定着させる。

説明書には2つの順序が大切である。1つ目は説明する事柄の順序である。ここでは「材料と道具」「作り方」「楽しみ方(遊び方)」である。2つ目は「作り方」の作業手順である。「まず」「つぎに」などの順序を表す言葉と合わせて指導する。また文章に合わせて写真や図があるよさにも気づかせたい。

「馬のおもちゃの作り方」と「けん玉の作り方」から見つけた説明の工夫をいかして、おもちゃの作り方の説明書を書かせる。その際、事柄ごとに分けて書く、「手順」の順序に注意して書く、絵や写真などの資料を使う、という3つの条件を示す。その中でも作品を作ることに大きく関わる「手順」に重点を置いて指導する。

おもちゃという題材は、児童が意欲的、主体的に説明書を書いたり、読み合ったりする活動に適している。また、おもちゃが仕上がるかどうかで正しく読み取れているか、説明書をかけているかがわかるため、何度も確かめる力も育てることができる。

(2) 児童について

(省略)

研究テーマに迫るために

研究テーマ

自ら学ぶ力と豊かな心を育てる情報教育をめざして ～情報活用能力を育てる授業デザイン～

今回の研究では、昨年度、川崎市立小学校情報教育研究会にあった学習過程プロジェクトの考えを大切に取り組んでいる。学習過程プロジェクトでは、探究的な学びとして、総合的な学習の時間でも意識されている、学びのサイクルをどのように構築していくのかを研究した。学びのサイクルとは「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」、そして次の課題設定へつながっていく流れを意識し、つながりのある学習計画を立てることである。これからの時代を担っていく子どもたちが、自分自身でその時々課題に気づき、学び続け、成長し続けていく過程を大切にしながら、研究テーマに迫っていきたい。

【学習過程を意識した授業計画】

どの教科でも、自分たちで問いを立て、自分で計画を立て学び続ける力を付けていくために、学習の過程を子供たち自身が意識することが大切になってくる。とはいえ、2年生の段階で「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」と伝えても、うまく浸透しない。

そこで4月から意識してきたのは、「課題の設定」のかわりとなる「めあて」と、「まとめ・表現」のかわりとなる「まとめ」を、1時間の学習や単元を通して設定することである。このように簡潔な言葉で表すことで、どの子にも意識できるようした。また、「情報の収集」「整理・分析」についても、「今日の授業は『あつめる』時間です」、「今日は『くらべる』『かんがえる』時間だね」と、子供たちと確認しながら進めていった。

今はまだ教員主体の授業が多いが、学年が進んだときに子供たちが学習過程を意識して、課題解決のためにすべきことをはっきりとさせて、自分から進んで学ぶ力の育成を図りたい。そのための基礎となる力を、身に付けさせたい。

【Google Workspace for educationの活用】

本校は、令和3年4月よりGIGA端末の活用が始まり、2年生は5月末から使い始めた。まずは端末に慣れるため、「ドリルパーク(ミライシード)」と「カメラ(静止画・動画)」を使った。野菜の観察や音読の撮影などで使用することで、「あつめる」「くらべる」「かんがえる」ことや、グループ学習の良さを感じ取っていた。9月からは「Jamboard」や「スライド」を使い、考えや話し合いを「見える化」させることを意識して、現在も取り組んでいる。道徳の賛成・反対の意見表明や、図工の鑑賞で、その効果が大きく出た。また、GIGA端末を使うことにより、自分たちの活動が「今はこの段階」「この先どうつながるか」という単元を見通した学習の手助けにもなっている。2年生の段階から端末の使用に慣れ、その機能を知ることで、今後の学習活動をよりよいものにする基礎を身に付けさせたい。

【日常における情報活用能力の育成】

GIGA端末を効果的に活用するためのスキルとして、「操作に慣れる」「文字を入力する」ことが大切だと考える。操作の面では毎朝、学年の「クラスルーム」から「フォーム」でアンケートを実施している。これにより、1日1回はGIGA端末を使うことができる。また、学校が終わるまでは道具箱に入れておき、学習の合間や休み時間など少しの時間ですぐに使用できるようにしている。

文字入力については、タイピング技能を向上させるために「キーボー島アドベンチャー」を活用している。現在は「手書き入力機能」が主な入力方法であるが、「ローマ字入力」へ移行している子も増えている。学習課程の問題もあるが、早いうちからローマ字入力の良さを伝え、身につけていけるようにしていきたい。

このような日常の使用に際しては、GIGA端末の使い方の指導が大切である。「悪い言葉を書いてはいけない」「カメラで撮るときには許可をもらう」などの情報モラル、「作ったもの(データ)は、ずっと残る」といったインターネットの特性は、使用する前やトラブルが起きたときに確認するようにしている。また、「学習に関係ないときは使わない」「困っているときは教えてあげる」など、普段から守るべきこと(日常モラル)も伝え、安心してGIGA端末を使える環境づくりも大切にしている。身近な道具としてコンピュータを使う子供たちに、しっかりとした情報モラルを育成し、上手に情報社会を生きていく力を身に付けさせたい。

単元を通して身につけたい力

- ・ 順序に従って内容を読み、わかりやすい説明の仕方を読み取ることができる。
- ・ 読み取ったことを生かして、順序を考えながら分かりやすく説明する文章を書くことができる。

5. 指導計画(14時間)

次	時	学習活動(○)	指導上の留意点(・) ICT活用場面(◆) ツール()	学習過程	評価規準【 】 評価方法[]
第1次	1・2	○単元のめあてをつかみ、学習の見通しをもつ。 ○自分が説明するおもちゃを探す。	・扉のリード文や写真を手がかりに、自分で作ったことのあるおもちゃを紹介し合い、学習への意欲を高める。 ◆自分が説明したいおもちゃを調べる。(図書資料)	課題設定 (めあて) 情報収集 (あつめる)	【態】「おもちゃの作り方」の説明のしかたに関心をもち、進んで分かりやすい説明を書こうとしている。[発言・記述]
第2次	3～5	○実際に馬のおもちゃを作りながら教材文を読み、説明の工夫を見つける。 ○説明の工夫について紹介し合う。	・順序や数を表す言葉、写真や図、文のまとまりなどに注目させる。 ◆順序を表す言葉に注目しながら文章を読み取る。	情報収集 (あつめる) 整理・分析 (くらべる)	【知】順序が分かる言葉をもとに、馬のおもちゃの作り方の手順を捉えている。[発言・記述] 【思C】順序を考えて教材文を読み、文のまとまりを捉えながら説明の工夫を読み取っている。[発言・記述]
	6	○文の説明の工夫についてまとめるを紹介し合う。	・友達の見つけた工夫もいかしていくよう助言する。 ◆前時までの活動を参考に、文章の工夫について考える。	整理・分析 (くらべる)	
第3次	7・8	○「おもちゃの作り方」の説明を書く学習への見通しをもつ。 ○説明するおもちゃを決め、必要な材料や道具を考える。	・前時までの学習をいかすことを意識させ、「がくしゅうのすすめ方」を手がかりに、学習の見通しをもてるようにする。 ・1年生に作り方を説明するという、相手意識をもたせる。	課題設定 (めあて) 情報収集 (あつめる)	【知】順序が分かる言葉を使って、説明する文章を書いている。[記述] 【思B】説明の順序に沿って、構成を考えながら文章を書いている。[記述]
	9・10	○選んだおもちゃの作り方の、説明のしかたを考える。	・「馬のおもちゃの作り方」と「けん玉の作り方」で見つけた説明の工夫を確認するよう助言する。 ◆前時までの活動を参考に、手順を意識した説明を考える。(Jamboard③)	情報収集 (あつめる) 整理・分析 (くらべる)	【思B】文章を読み返し、分かりづらいところを書き直すなど、文章をよりよくしている。[観察・記述] 【思B】書いた説明を友達と読み合い、感想を伝えあっている。[観察・発言]
	11～13	○選んだおもちゃを説明する文章を書く。 ○書いた文章をもとにおもちゃを作ってみて、文章の見直しをする。	・説明の順序に気をつけて書くよう助言する。 ・ここまで確認してきた説明の工夫を使って書いているか、確かめさせる。	整理・分析 (くらべる) まとめ・表現 (まとめ)	【態】学習したことをいかし、順序を意識してわかりやすい説明を書こうとしている。[観察・記述]
	14	○完成した説明文を読み合って感想を伝え合い、学習を振り返る。	・順序などの説明の工夫を観点に感想を伝え合い、自分の文章のよいところに気づくことができるようにする。	まとめ・表現 (まとめ)	
		○おもちゃランドの準備をする。	・作成した説明書をもとに、1年生に説明するという、相手意識をもたせて準備するよう伝える。	整理・分析 (くらべる)	【思】1年生が楽しめるように、作るときの工夫や遊び方の改

生 活 科		<p>◆材料、作り方など、説明することを分けて考える。〈ジャムボード、スライド〉</p> <p>◆わかりやすく伝わるよう、説明のしかたを工夫する。〈スライド、カメラ、動画〉</p>	まとめ・表現 (まとめ)	<p>善点を相談しあっている。</p> <p>[行動・観察]</p> <p>【知】作り方や遊び方を工夫したことで、1年生が楽しめたことに気づいている。</p>
	○おもちゃランドを開く。	・1年生がうまく作れるよう、作り方を見せたり、手伝ったりするよう伝える。	まとめ・表現 (まとめ)	<p>[行動・観察]</p> <p>【態】1年生を招待して遊ぶことの楽しさを実感し、これからも多くの人と一緒に遊びを作り出そうとしている。</p>
	○おもちゃランドの振り返りをする。	・国語の学習にも触れ、活動や説明がうまくいったかを振り返るよう伝える。	まとめ・表現 (まとめ)	<p>[行動・発言]</p>

7. 本時の学習(10/14)

(1) 目標 自分たちで選んだおもちゃの作り方の、構成と順序を考えることができる。(整理・分析)

(2) 展開

<p>主な学習活動 予想される児童の反応「 」</p>	<p>支援(・)評価【 】評価方法[] ICT活用場面(◆)とツール< ></p>
<p>1 前時までの活動を確認する。 「自分たちが選んだおもちゃの作り方を書いた」 「1年生にうまく伝わるかな」</p> <p>2 本時のめあてをつかむ</p> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><作り方>の文について、もっとわかりやすくてできるか考えよう。</p> </div> <p>3 <作り方>の文で、説明が工夫できるか考える。 『馬のおもちゃの作り方』のときと、同じように考 えてみよう 『つぎに』のところは、2つに分けて『つぎに』と 『それから』にしたほうがいいのかも 「ふせんの文字が小さいから、もっと短くてわかりや すくしたほうがいいよ」</p> <p>4 全体で発表する。 『つぎに』のところが長くなっていたので、2つに 分けて『つぎに』と『それから』にしました 「文章が長かったので、短くしてみました」 「1年生がわかりやすいように、言い方を変えてみま した」</p> <p>5 本時の学習を振り返り、次時の見通しを持つ。 「工夫をたくさん見つけることができました」 「次は、説明する文を書くんだね」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同じおもちゃを選んだグループで、作り方を書 いたことを確認する。 ◆PCを見ながら、前時の確認と本時のめあてを つかむよう伝える ・「わかりやすい」文について、確認する。 文章はなるべく短くする。 「cm」など、習っていない言葉は変える。 1年生が読んだだけで作れる。作りたくなる。 ・馬のおもちゃの作り方のことをふり取り、わか りやすかったことを思い出すよう伝える。 ・思いつかない児童には、友達の文を参考にし、 文の明確さ、説明の順序、順序を表す言葉に注 目して探すよう伝える。 ◆お互いのJamboardを見合い、わかりやすくて きるところを話し合う。 ・話し手は、工夫を紹介しながら、選んだ理由や 友達の気づきの良さを発表するよう伝える。 ・聞き手は、自分と同じ工夫だったか、新しく気 づいた工夫かを考えながら聞くよう伝える。 ◆教員のPCを使い、自分の作り方を紹介する。 (Jamboard③(活動後から)) ・ノートに、発表を聞いて気づいたことを書くよ う伝える。 ・うまく書けない児童には、友達のどんな工夫 が良かったかを書くよう伝える。 ・次時は考えた工夫をもとに、説明する文を書く ことを伝える。 <p>【知】 順序が分かる言葉を使って、説明する文 章を書いている。[記述] 【思B】説明の順序に沿って、構成を考えながら 文章を書いている。[記述]</p>